

令和2年1月10日号 (第204回)

阿伎留通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

あけましておめでとうございます。

「阿伎留通信」は本年も皆さまの健康に役立つ情報や、病院についての情報を発信していきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。



今回の阿伎留通信は、

「妊娠から出産、そして産後の子育てを支える役割を担いたい」をテーマに、3階西病棟の須藤 芳重看護師長よりお話しさせていただきます。

妊産婦の不安や負担軽減のため、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行うことの重要性が近年注目されており、厚生労働省において『妊娠・出産包括支援事業』が平成27年度より実施されています。今回の阿伎留通信では、当医療センターで実施している支援事業についてご紹介させていただきます。

当医療センターの3階西病棟においては、平成28年から**若年妊婦の担当助産師制度**を導入し、妊娠期から産後にわたる継続支援を開始しました。最初は心を打ち解けなかった10代の妊婦さんも、担当助産師が関わりを継続するうちに、笑顔が増え、会話も多くなり、自分の気持ちを表に出すようになられます。それにより、私たち看護者も彼女たちが抱える家庭や育児環境などの問題点を把握することができるようになり、その解決に向け、地域の保健師と連携し、支援につなげることができています。



当医療センターの3階西病棟における産科業務が再開されて4年が経過しました。現在、年間の分娩件数は200件弱ですが、若年妊婦だけでなく、高齢妊婦や精神疾患合併妊婦など、何らかの支援が必要と予測されるハイリスク妊婦と呼ばれる方もおり、年間分娩数の1割弱を占めます。退院後のサポート不足や産後の身体回復の遅れ等により心身不安定な状態で育児を行った場合は、産後うつの発症、ネグレクト、虐待などにつながる可能性があります。



産後に起こりうる問題点を妊娠中に把握し対応することは、産後の問題解決につながります。そこで、私たちは昨年度から、ハイリスク妊婦だけでなく、全妊婦に対し、妊娠初期に**育児支援のスクリーニング**を行っています。

また、退院後は助産師による**産後2週間健診**を実施し、産後の母親の心身の状態や育児環境、家族サポート体制を確認し、支援の必要な対象者は早期に地域の保健師と連携して継続支援につなげることができています。

さらに今年度からは、**産後ケア入院**の制度が始まりました。あきる野市の産後ケア事業の一つであるため、支援が必要な対象者には利用しやすい制度となっています。

(詳細は「[あきる野市子育て応援サイト](#) [るのキッズ](#)」をご覧ください。)

産後ケア入院では、新生児と母親が入院という形で生活し、助産師の支援を受けながら自宅での生活リズムやイメージをつけ、自立して育児ができるように、生活や育児支援を行います。

私たちは、妊娠期から出産という女性にとって大切な時期を支えるだけでなく、退院後も、健全に安心して育児を行っているよう、母親と家族の子育てを支えていきたいと考えています。そのために、病院だけに留まらず、地域の保健師などと協働して、スタッフ一丸となり、日々の業務やご紹介した事業に邁進していきたいと思えます。



阿伎留通信については、バックナンバーを公立阿伎留医療センターのホームページで閲覧になることができます。ホームページアドレス(<http://www.akiru-med.jp>)